

# INFORMATION

## ウメやモモなどを加害する害虫「コスカシバ」の防除方法について

近年果樹や楠木の幹につく害虫が増加しています。主な虫はコスカシバ・カミキリムシ・コウモリガ・ボクトウガなどですが、今回は代表的な樹幹害虫であるコスカシバについて取り上げます。

一 コスカシバの発生と生態  
モモ・ウメ・サクラ・スモモ・アンズなどを加害します。通常は年一回の発生です。生活環は図-1のような経過をたどります。

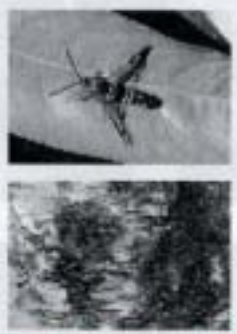


図-1 コスカシバの成虫と食害

成虫は六〜十月にかけて飛びまわり、卵を樹皮の割れ目などに一粒ずつ産みつけます。その後ふ化した幼虫は、形成層に食入し食害を続けます。

十一月頃になるとそのまま越冬します。翌年三月上旬頃から再び食害を始めますが、間もなくサナギとなります。

サナギは羽化すると虫体の半分を樹皮の外に出します。樹皮にはサナギのぬげ殻が残っているため、コスカシバの被害と一目でわかります。

### 二 形態・被害と診断

成虫は翅の開張が二・五〜三・〇cmで、胴体が太く翅は細長く透明です。腹部に二本の黄帯があり、ハチのように敏しように飛び回ります。

幼虫は乳白色で頭部が褐色、体長は老熟すると二・五〜三・〇cmになります。被害部からは糞を出し、幼虫が生長するにつれて糞粒

は大きくなり樹皮が荒だちヤニを出します。その後も集中的に加害され易くなり、被害がひどいときには、樹脂病や胴枯病を併発して樹勢が弱り、ついには枯死します。

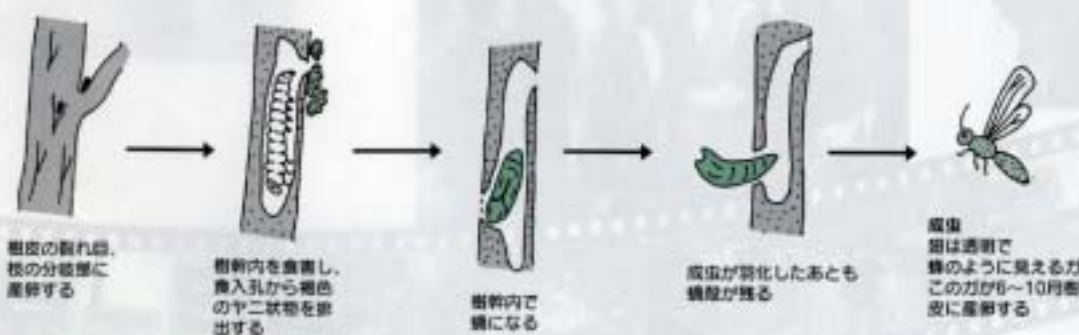


図-2 スカシバ類の生活環

### 三 防除のポイント

(一) 雑草の防除  
雑草をつけると被害が増加します。雑草を早目に取り除き、通風、日照をよくすることにより防除ができます。

(二) 捕殺による方法  
虫糞やヤニの出ている部分を目あてに、幼虫の潜入部位をナイフ等で削り捕殺します。

四〜五月の食害の盛んな時期は

発見し易く、特に降雨直後は、ヤニが軟らかく作業が容易です。

十〜十一月頃であれば幼虫が比較的浅いところにいるので、糞の出ている部分を金づちで軽くたたけば殺すことができます。

### (三) 薬剤による防除

成虫が発生する六〜十月にかけて、スミチオン乳剤・マリックス乳剤・ガットキラール乳剤等を幹や枝にいいねいに散布します。八〜

### 四 性フェロモン剤による防除

九月を中心に関防除を行って下さい。スカシバコンによる方法で、地域ぐるみで一斉に取り組むことで成果が上がります。今後検討する必要があります。

以上防除方法をあげましたが、同じ梅でも品種や栽培される環境により被害の差があります。ほ場を観察し、コスカシバの発生を見たら早めに防除対策をとって下さい。